

# しぜん がくしゅうかん だよ トキと自然の学習館 便り

がっ できごと  
～3月の出来事～

れいわ ねん がっ  
令和5年3月  
VOL.65



できごと  
出来事  
①

## さんらん はじ 産卵シーズン始まる

10日、長岡市トキ分散飼育センターで国内の飼育下で今季初めてとなる卵が産まれました。残念ながらこの卵は巣の中で割れてしまいましたが、12日に2個目となる卵が確認されました。長岡市での産卵は12年連続で、今年はいままでで最も早い産卵日となりました。トキの抱卵期間は約28日で、順調に進むと4月中旬にはヒナが誕生する予定です。つがいの様子はトキと自然の学習館の大型モニターで生中継映像をご覧ください。



↑足元に卵

## ふゆ とりちようさい 冬の鳥調査隊

できごと  
出来事  
②

寒い季節の鳥について学ぶ「冬の鳥調査隊」を開催しました！市内の小学生と保護者21人が参加し、初めて寺泊水族博物館の屋外広場から野鳥の観察をしました。

長岡野鳥の会の渡辺先生から、「3月の寺泊海岸は冬の渡り鳥がロシアなどの繁殖地へ帰る通過地点になっている」と説明がありました。観察中にも、北へ向かう300羽以上のカモの群れが確認でき、参加者は歓声をあげていました。



↑黒い点がカモの群れ



水族博物館の西川学芸員からは、寺泊海岸に打ち上げられた漂着物が紹介されました。私たちの生活のために使われている道具が、環境破壊をもたらすだけでなく、漁業用の網が海鳥の足に絡まるなど、生き物が命を落とす深刻な被害にも繋がっていると教えてもらいました。

最後はトキと自然の学習館に移動し、渡辺先生から「冬のトキの暮らし」について、話を聞きました。クチバシで獲物を探すトキにとって、雪深い地域で生きていくことはとても大変なことです。魚沼市で撮影した写真では、一面雪に閉ざされる中、トキがわずかに土の出ている場所を見つけて、エサを探る様子が紹介されました。

参加者からは、「トキは美しいイメージだったが、エサで苦労し頑張っていると感じた」「鳥が生きるとは思っていたよりも難しいことが分かった」と感想があり、冬の環境で生き抜くことの厳しさを学びました。



魚沼市・守門(2009/1/29)

雪のない場所を必死で探す。